

平成 29 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉西高等学校

学校長 稲毛 靖

評価日	平成 30 年 3 月 19 日 (月)	
評価・提言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ○自己評価表 (年度末) について <u>基本的な生活習慣の確立について</u> ①コミュニケーション能力を向上させる ・生徒の挨拶はよい。基本的な生活習慣の基礎であり、評価できる。 ②時間の使い方の意識を向上させる ・遅刻の延べ数は目標達成できなかったが、ほとんどの生徒は良好である。 <u>キャリア教育の充実について</u> ①チャレンジグループ活動の計画的な実施、及び内容の充実 ・探究活動に新しくレポート作成を課したことについて、時間や手間をかけることはむしろすべきことだと思っている。 ・グループとしての活動と個人研究の狙いははっきり意識させることが大切である。また、報告集は外部 (評価委員) が見ることができるのか。 ・グループで活動することの位置づけをはっきりさせた上で、その活動を評価するシステムがあっても良い。 ・グループでの活動は協働性を育む場になる。その点ではテーマが異なってもお互いに刺激になり、良い影響があると思う。 ②地域のことを知り、アウトプット能力を向上させる ・数あるボランティアの精査を行い、ボランティアを実施していない生徒の指導を行うことも必要。ボランティアによって豊かな発想を生み出すこともできる。 <u>主体的な学習姿勢の構築、及び学力の向上</u> ①アクティブラーニング (AL) の視点を取り入れた授業の工夫</p>	<p>→今年度の学校評価中間自己評価表と学校評価年度末自己評価表を提示 →今年度は挨拶に加えて、コミュニケーション能力の向上も目標に加えて取り組んだ。今年度新たに生徒のアンケート項目にも追加して状況把握をしたところ、7割以上の生徒が高まったと回答し、ステージ3は8割以上であった。 →発表が終了ではなく、自分が探究したことを報告書にまとめるまで求めた。その際、他校の例も示してまとめ方についての指導も行った。 →闇雲に時間をかけるのではなく、期限を決めて作成に取り掛かるように工夫する。報告書は全生徒に配布予定で、評価委員にも配布予定である。 →個人研究に移行してきたのは一人ひとりが調査研究を行い、他人任せにしないことを意図してのこと。確かに、グループでの活動も自分の位置を主体的に把握して活動に参加する意味で社会に出て必要なスキルにつながる。その意味で関西研修のグループ研究は意味ある事である。また、今後外部からの評価を取り入れ、より充実した内容にすることも大切である。 →チャレンジのグループ毎で推奨するボランティアを提示し、未実施の生徒には積極的に声かけをしていく必要がある。今年度ステージ1に対して必須にしたのは、社会とのつながりを感じてほしいからである。 →高校では落ち着いて授業が展開できている。生徒のアンケートは状況に応じて大</p>	

- ・ALを導入した中学校では生徒アンケートの中に「落ち着いて授業ができないという」ものがあつたようだが、高校ではどうか。
- ・大学ではALの評価として ルーブリック評価を行っているが、どうか。

②学ぶことの意味を理解し、主体的に学ぶ意欲を高める

- ・「活動あつて理解なし」にならないことが大切である。考える場面は必要だが、教えるべきことは教えた上で展開することが大切。
- ・パイオニアホームの意識も高まっている。

③校外模試成績を含めた学力向上

- ・目標の数値に対しては不十分なものになってしまった。

情報収集、情報発信の充実

学校の魅力、生徒の活動状況を積極的に情報発信する

- ・ホームページについては、アクセスログ解析するとニーズが把握できて効果的である。
- ・広報誌は文章だけでなく、写真等を適宜使い、見やすい誌面を心がけることが大切である。

(2) 説明・公表について

- ・学力向上は「C」でよいか？よく伸ばしていると思う。指標が厳しいという印象を受ける。
- ・目標設定の仕方でも変わることもあるので検討してみたい。

2. 今年度の県立学校裁量予算による学校運営の状況について

- ・中高連携でお世話になっている。3年生のみならず、2年生も全員西高を訪問させていただき感謝している。

3. 取組改善のための提言

- ・普通科高校のインターンシップの実施について次年度はどのようになるのか。

4. 学校の所見

大きく数値が変わることがあり、定着の度合い等一概には言えない面がある。

→生徒の脳を活性化することがALの目的であり、今後もその観点でALを推進していく。

→後期は生活のリズムが作れ、家庭学習の時間が増加してきた。

→学習意欲や進路意識はステージが上がるにつれて高まり、自覚が出ている。

→目標値の適切な設定について、継続的に検討していく。

→昨年度よりも3割以上の増加であるが、目標の300回更新には達しなかった。

→業務改善の観点で発行回数を減じて作成し、発行してきたが、より多くの方に読んでもらえるように改善していきたい。

→大学進学への要望も強くあるので、それを達成するためには必要だという思いで設定している。

→来年度は大学進学重点校でもあり、進路志望達成の観点から指標を設定した。

→チャレンジグループ活動や探究活動など本校の取組について、本校生の発表場面などを工夫して、中学生にさらに良く伝わるようにしていく。

→今年度も学校独自のインターンシップ(県庁訪問)を行った。次年度(H30)は東部の企業を半日訪問するよう計画を考えている。(フィールドワークイン関西の県内版という位置づけである。)

※学校関係者評価委員からの意見として、本年度の倉吉西高校の取組に対して評価していただいた。今後、地元・ふるさとを支える生徒の育成について地域と協力して進めていく必要と地域の中の学校という位置づけをしっかりと認識したい。